

国語総合

単元名 文章を多角的な視点から読み深める

キーワード：

多角的視点から各自の
読みを深める

指導者 辻 尚宏

(1) 単元の目標

- ・ 様々な文章を読み比べ、話し合うことで、自分の考えを多角的視点から深めている。
(関心・意欲・態度)
- ・ 天災と自然との共生について書かれた文章を読み比べ、文章に表れているものの見方や考え方の違いを整理し、科学の有効性という課題から自分の考えをもつことができる。
(読む能力) (「C読むこと」の内容の(1)のオ)
- ・ 文や文章の組立て、語句の意味、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにする。
(知識・理解) ([伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項] イの(イ))

(2) 取り上げる言語活動と教材

言語活動： 共生に関する古典や近現代の文章を読み比べ、話し合い、内容について自分の考えを述べる文章を書く。(「C読むこと」の内容の(2)言語活動のウ)

教材： 「『共生』とは何か？」(鬼頭秀一)

『方丈記』(鴨長明)

『三陸海岸大津波』(吉村昭)

『関東大震災』(吉村昭)

『幸福立国ブータン—小さな国際国家の大きな挑戦』(大橋照枝)

(3) 具体的な評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
・ 様々な文章を読み比べ、話し合うことで、自分の考えをもとうとしている。	・ 天災と自然との共生について書かれた文章を読み比べ、文章に表れている共通点、相違点から、自分の考えを得ている。 ・ 文章に表れているものの見方や考え方を整理し、科学の有効性という課題に対して自分の考えをもっている。	・ 文章を読む上で必要な語句の意味や文語のきまりを理解している。

(4) 指導と評価の展開 (全3時間)

次 (時)	具体的評価規準と評価方法	○学習活動 ・指導上の留意点
1	【評価規準】 ・文章を読む上で必要な語句の意味や文語のきまりを理解している。(知識・理解) 【評価方法】 「行動の観察」 「発言の確認」	○『方丈記』における大地震に関する記述の読解をする。 ・辞書や文法書を参考にさせながら『方丈記』本文を各自で読ませる。 ・「ことならず」や「ばや」など、本文中の難解な語句や文法事項を確認させる。

	<p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 『方丈記』本文を読解し，自分の考えをもとうとしている。（関心・意欲・態度） <p>【評価方法】</p> <p>「記述の確認」</p> <p>「発言の確認」</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・机間指導しながら，困難を感じている生徒には助言をする。 ・難解な古文単語や文法事項については，読解に必要な範囲で指導する。 <p>○『方丈記』の記述から読み取れる地震の様子をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート①の一に記入させる。 ・ワークシートに記入した内容の異なる生徒を数名指名し，発表させる。 ・自分の考えとは異なる考えが出た場合，ボールペンでワークシートに記入させる。 <p>○『方丈記』の記述から読み取れる地震に際しての人々の様子をまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート①の二に記入させる。 ・机間指導をしながら，まとめられない生徒には着眼点について助言する。 <p>○前回の単元で学習した「『共生』とは何か？」（鬼頭秀一）との関連性から，当時の人々はどうのように自然と共生していたかを考え，自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート①の三に記入させる。 ・根拠を明確にさせることで，本文を読み込ませるように注意する。
2	<p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 文章を読み比べ，話し合うことで，自分の考えを多角的視点から深めようとしている。（関心・意欲・態度） <p>【評価方法】</p> <p>「記述の確認」</p> <p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な文章を読み比べ，文章に表れている共通点，相違点から，自分の考えを得ている。（読む能力） <p>【評価方法】</p> <p>「発言の確認」</p> <p>「記述の確認」</p>	<p>○『三陸海岸大津波』，『関東大震災』（吉村昭）を読み，『方丈記』との共通点や相違点について読み比べ，自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉村昭，記録文学について簡単に説明する。 ・共通点，相違点について注意しながら，自分の考えをまとめ，ワークシート②の一に記入する。 <p>○まとめた自分の考えをもとに話し合いを行い，見方や考え方を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1グループ5～6人のグループをつくり，読み比べて考えたことなどを話し合わせる。 ・話し合いは形式的なものとならないように，付箋を用いて自分の考えを書き込み，ワークシ

	「行動の観察」	<p>ートに添付する補助作業を活用するものとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・班員全員が話し合いに参加できるように促す。 ・話し合いにおいて自分とは異なる意見が出た場合は、ワークシート②のメモに記入させる。 ・話し合いの結果、自分の考えがどのように変化したかまとめ、ワークシート②の二に記入させる。
3	<p>【評価規準】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文章に表れているものの見方や考え方を整理し、科学の有効性という課題に対して自分の考えをもっている。(読む能力) <p>【評価方法】</p> <p>「発言の確認」 「記述の点検」 「行動の観察」</p>	<p>○自然と共生する上で、科学は本当に有意義か否かについて自分の考えをまとめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート③の一に記入させる。 ・前回回収したワークシートや付箋を用いた話し合いで活用した用紙の内容について概説する。その際に、時代が変わって文明が進歩しても天災に際して変わらない人間の様子に気付いた生徒の意見を発表する。 ・科学の有効性について、生徒各自の考えをまとめさせる。 ・文章の読み比べによって得た共通点に目を向けるように促す。 ・自分の考えをまとめられない生徒には、机間指導の中でこれまでの授業内容やワークシートを振り返るように促す。 <p>○科学の有効性について、話し合いをし、読み比べをして得たものの見方や考え方を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・話し合いは付箋に意見を書いたものを用いて、班員全員が発言できるようにする。 ・科学の有効性に肯定的な意見と否定的な意見を対比させて話し合わせる。 ・ブータン国民の幸福度に関する文章を読ませ、科学の有効性を否定する人々の紹介をする。 ・ワークシート③の二に、自然との共生や科学の有効性について、自分の考えを改めてまとめさせる。

『共生』とは何か？ワークシート①

組 番氏名)

一 『方丈記』を読んで、当時の地震はどのようなものであったかまとめよう。

二 地震に際して、当時の人々はどのように対応していたかまとめよう。

三 当時の人々は、自然とどのような形で共生していただろうか。根拠を明らかにして、自分の考えをまとめてみよう。

『共生』とは何か？ワークシート②

組 番氏名)

一 『方丈記』、『三陸海岸大津波』、『関東大震災』を読み比べ、共通点と相違点をそれぞれあげてみよう。

【共通点】

【相違点】

二 話し合いを通して、文章間の共通点や相違点についての自分の考えがどのように変化したか(変化しなかったか)まとめよう。

【Memo】

『共生』とは何か？「ワークシート③

組 番氏名)

(

「これだけ時代が進歩し、技術が発達しても、天災を前にする人々の姿は変わらない。それならば、科学は有効性を持たない。」

この意見に対して「賛成」か「反対」を明示した上で、自分の考えを述べてみよう。

【 賛成 ・ 反対 】(いづれかに丸を付けよう。)

【理由】

二話し合いや記事を通して、自分の考えがどのように変化したか(変化しなかったか)まとめよう。

【Memo】